

キャリア教育と「産業社会と人間」

愛知県立蒲郡高等学校

1 はじめに

(1) 本校の概要

本校は1学年6学級の全日制総合学科（平成15年度より総合学科）である。「勤勉・礼節・自律」という校訓の下，地元の人に愛され親しまれ，知・徳・体共に整った高校生の育成，日進月歩の社会の発展に対応し，寄与できる人材の養成を目指している。そして，生徒たちの夢をはぐくみ，個性を育て，「これまで」よりも「これから」を重視し，生き生きと活躍でき，自分たちの可能性を拓くことのできるチャレンジスクール（自分にチャレンジする）を目標に頑張っている。卒業後の進路先については，大学短大進学90名程度，専門学校進学60名程度，就職80名程度であり，多様な進路先に対応している。

(2) 産業社会と人間

「産業社会と人間」は総合学科における原則履修科目として1年次に全員が履修しており，週2単位実施している。授業担当は，1クラスを正副担任の2人で行い，それぞれ20名ずつ担当している。授業内容は，自己理解・職業理解・学問理解・将来設計（ライフプラン）をキーワードに自分史作成や発表，職業人インタビュー，適職適学進路適性検査，外部講師講話，科目選択ガイダンス，進路研究，そしてライフプラン作文作成等，進路希望にかかわらず全員対象に実践している。なお，授業ごとにワークシートを用意し，提出させており，その毎時間のワークシート（指導案を含む）は学校独自の教材として作成したものを使用している。

(3) 学校全体の取組

進路指導部による学年別進路指導を始め，1年次の「産業社会と人間」，2年次・3年次の「総合的な学習の時間」を通して，将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深める学習や生徒の興味・関心，個性を生かした科目選択（指導）や主体的な学習を重視し，多様な能力や適性の伸長を目指し柔軟に対応している。また，社会体験学習（インターンシップや実習体験），ボランティア活動，地域貢献活動を広く生徒に奨励し，普段のあらゆる学校行事や教育活動を通して，キャリア教育の推進を図っている。

2 本実践のねらい

本校生徒（総合学科生）の入学時の進路希望は例年，進路希望未定の者の割合が全体の2割を超えている。今年度においては，4割近い数字になっている（資料1）。その現状を踏まえ，「産業社会と人間」の授業において入学当初にオリエンテーションとともに適職適学進路適性検査を行っている。この検査は，職業人2万人のデータベースを基に，自分と似た価値観・興味・志向をもった人が実際にどのような仕事や学問の分野で活躍しているかを分析し，自分に合った仕事や学問は何かを考えるきっかけを提供する検査である。

この検査の客観的な結果を基に，授業では「自己理解」「理解」「学問理解」について深く学び，調べていく内容になっている。「世の中にはどのような職業や学問がある

【資料1 本校生徒の入学時進路希望】

	H17	H18	H19
大学	42	44	41
短大	22	32	30
専門学校	74	52	46
就職	51	38	33
未定	47	74	89

のか」「その職業に就くためにはどのような学部学科に行けばよいのか、どんな学校を選べばよいのか」など自分の将来に向けての方向性を見出すことを大きな目的としている。そして、自分の進路についての明確な目標設定を行い、その進路に応じた科目選択、または、興味・関心に応じた科目を選択・決定していくとともに、高校3年間の目標設定、高校卒業後の将来設計（ライフプラン）についても自らの考えをまとめ、その実現に向けて主体的に取り組むことをねらいとしている。（資料2）

【資料2

「産業社会と人間」のイメージ】

将来設計（ライフプラン）	
科目選択	
職業理解	学問理解
自己理解	

3 実践の実際

(1) 「産業社会と人間」の年間計画

学期	目的	月	学習テーマ（配当時間）	学 習 内 容
1	自分及び職業を知る	4	進路適性検査受験 (2)	進路適性検査受験
			新入生オリエンテーション (2)	蒲高ガイダンス 担任面接資料、自分史作成資料配付
			自分を知る〈自己理解〉 (1)	自己理解、性格やパーソナリティの傾向を知る
			自分史作成発表〈自己理解〉 (2)	自分史のワークシート作成。クラス内発表
	職業を知る	5	職業を知る〈職業理解〉 (1)	教材を用いて「働く面白さ」について学習
			学問を知る〈学問理解〉 (1)	教材を用いて職業・資格の種類と上級学校の調べ学習
			適性検査結果と自己理解 (1)	検査結果を用いてワークシート作成
			適性検査結果と適職・適学 (2)	検査結果を用いてワークシート作成
	系列を選択科目	6	合同進路講話 (1)	昨年度の進学・就職実績から学ぶ
			系列・科目オリエンテーション (1)	系列の考え方・科目履修計画作成のための科目説明
			卒業生講話 (1)	進学・就職した卒業生の講話
			選択がイデンス／進路学習 (1)	1年次各選択科目のガイダンス
			履修計画作成がイデンス (1)	2・3年選択履修計画の立て方についての全体説明
			保護者会	1年次選択科目仮登録・進路希望調査
			2・3年選択がイデンス (2)	2・3年次各選択科目のガイダンス
			系列進路希望調査 (1)	系列希望調査の実施
	目考察	7	大学企業見学事前学習 (1)	大学又は企業見学の事前学習。
			履修計画作成作業① (1)	科目選択がイデンスを用いて3年間の履修計画を立てる
			履修計画作成作業② (1)	科目選択がイデンスを用いて3年間の履修計画を立てる
			履修計画作成作業③ (1)	履修計画再考、原案作成
		8	2・3年次科目選択指導	1年次選択科目本登録、2・3年次科目選択仮登録

2	自己 現 の た め の 科 目 選 択		開講予定講座発表／調整 (1)	希望状況の説明，再検討の日程説明，調整
			夏休み課題発表 (2)	職業人インタビューのクラス内発表
			外部講師講話 (1)	進路専門家によるパネルディスカッション式講話
		9	進路研究① (1)	就職，上級学校について学ぶ
			進路研究② (1)	各進路別の指導の流れについて学ぶ
			外部講師講話(1) (1)	「働く意味と目的」について
		10	進路研究③ (1)	履歴書，志望動機書，小論文の形式について学ぶ
			小論文指導①～④ (4)	文章の書き方，文章要約，自分の意見の論理的な記述
			科目調整指導	
			外部講師講話 (2)	市民講師による職業講話
	将 来 の 夢 の ま と め		小論文⑤ (1)	課題小論文（論述）を書く
			保護者会	最終的な選択科目調整
		11	外部講師講話 (1)	「キャリアデザイン」と自分の生き方
			ライフプラン作成①～④ (4)	進路計画を発展させ，夢実現に向けどのように取り組むのかを計画，作成する
		12	ライフプラン冊子作成 ⑤～⑦ (3)	ライフプラン（生涯にわたる人生設計を論理的に論述）の清書，冊子としてまとめる
			ライフプラン作成冊子製本(1)	冊子製本作業を行う
		1	ライフプラン クラス発表(2)	クラス内で各自のライフプランの発表
			産業調査学習①② (2)	修学旅行（2年次5月北海道）の産業・歴史調査学習
		2	産業調査学習③ (1)	修学旅行（2年次5月北海道）の産業・歴史調査学習
			ビデオ学習 (1)	「自立と職業」をテーマにしたビデオ学習
3			外部講師講話 (1)	「夢へ向かって努力しよう」講話を通じて学ぶ
			ライフプラン学年発表会 (2)	学年代表による発表と1年間の総括
		3	反省とまとめ (1)	1年間のまとめ，アンケートや感想文

(2) 評価方法

「産業社会と人間」の学習活動の評価については，教科のように試験を行うのではないので時間ごとに提出するワークシートや報告書（課題）を含めた提出物，発表内容（資料3），そして授業に取り組む態度等を総合的に判断し，5段階評価をしている。なお，各個人用の専用のファイルを配付し，毎時間のワークシートはいつでも自分で確認できるように，すべてファイルに閉じて保存するようにも指導し，徹底させている。

【資料3 生徒によるプレゼンテーション】



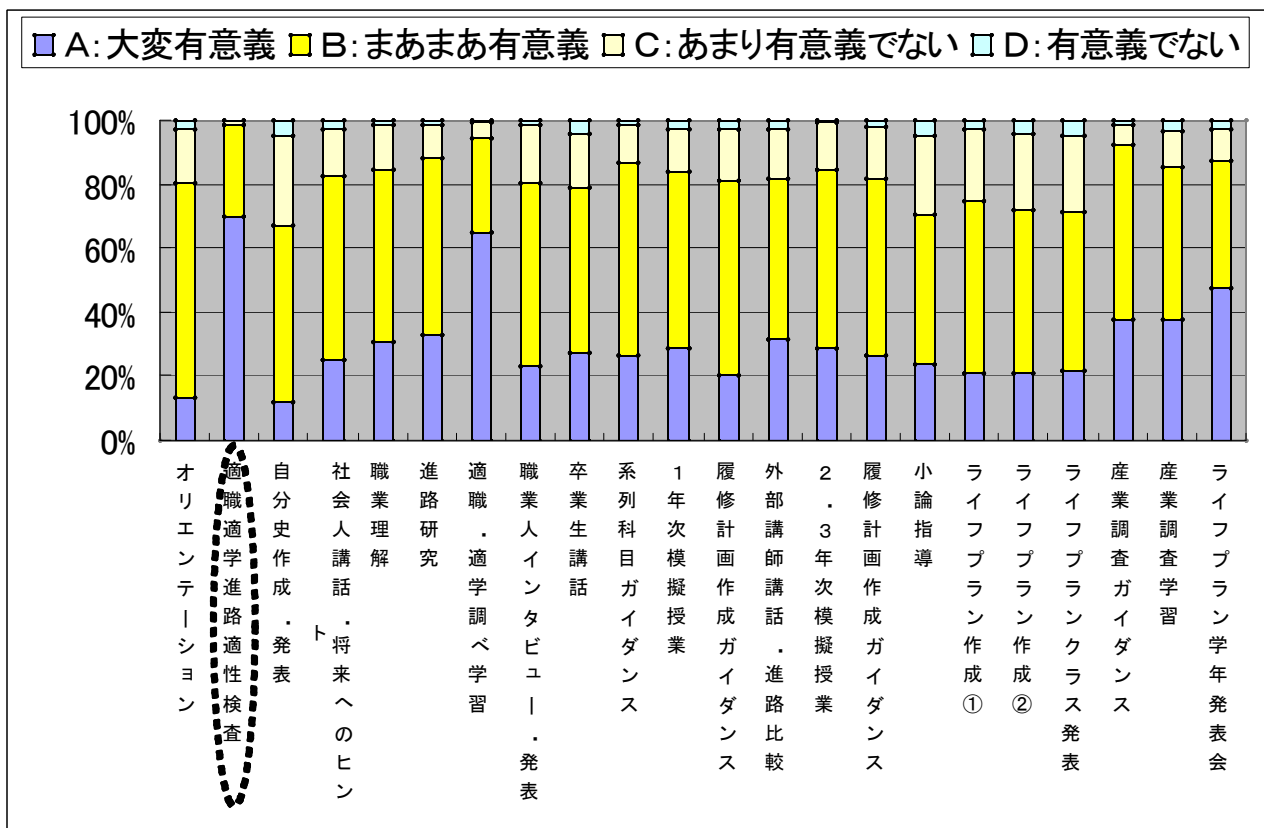
4 考察

平成16年度入学生（今春の卒業生・総合学科2回生）の「産業社会と人間」のアンケート（234名分）と生徒の進路希望の変化について考察してみた。

(1) 「産業社会と人間」アンケートの結果について

ア 調査方法 「産業社会と人間」の授業内容について、選択肢（大変有意義、まあまあ有意義、あまり有意義でない、有意義でないの四択）より一つを選択する方法で行った。

イ 調査結果



ウ 考察

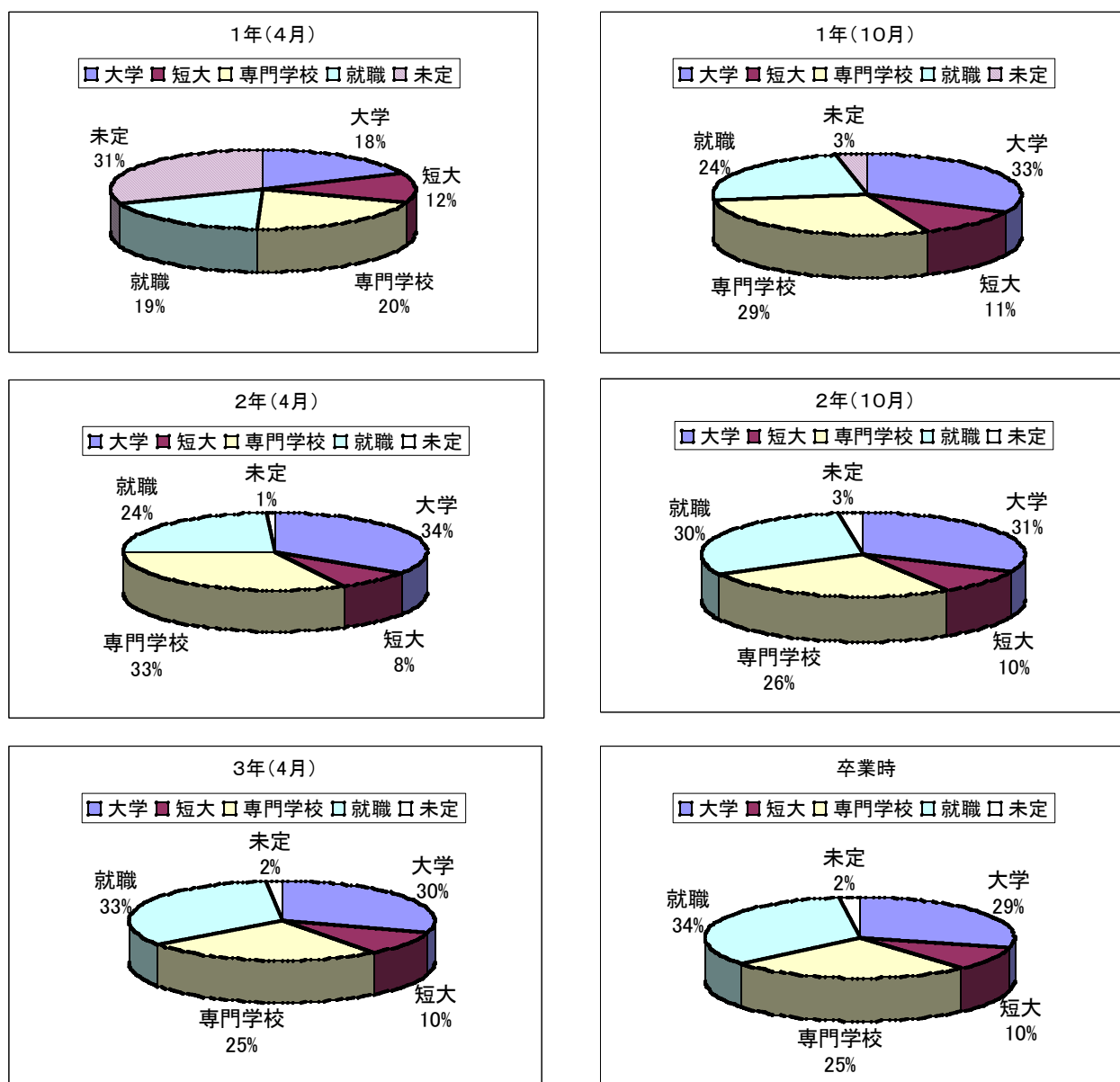
どの学習テーマについても7割から8割の生徒が、「大変有意義」又は「まあまあ有意義」と評価している。特に一番評価が高かったテーマは、適職適学進路適性検査にかかわる内容であり、約7割が「大変有意義」と評価し、「まあまあ有意義」を含めると実に9割以上であった。適性検査の診断結果を受けて、自己のパーソナリティー、職業希望、学問希望を自己分析し、今まで気付かなかった適性や可能性を知ることができた証^{あかし}であると思う。逆に評価が低かったテーマは、自分史作成・発表、小論文指導、ライフプラン作文作成などじっくり考えてまとめることや「書く」作業が中心になること、発表する内容等であった。しかし、評価が低いと言っても、6割以上の生徒は有意義と答えており、全体を通じて各々の学習テーマの趣旨をよく理解し、積極的に取り組んでいたことが分かる。

(2) 進路希望の変化について

本校では、進路希望調査を年に2回、4月と10月に定期的に行っている。平成16年度入学生の進路

希望が「産業社会と人間」の授業を受けて、どのような進路希望の変化があったのかを調べてみた。

ア 変化の様子



イ 考察

入学当初、進路未定で入学してきた生徒は、全体の31.6%（74名）であり、単純に3人に1人が進路希望未定で本校に入学していることになる。1年次の第2回目（10月）の進路希望調査では、進路未定であると回答した生徒は激減し、3.4%（8名）という結果であった。その時点での自分の進路の方向性を見いだせていることが分かる。推移を見ると、大学進学希望の割合が増え、専門学校、就職のそれぞれにほぼ同じような割合で進路希望が移動していることが分かる。しかし、将来について真剣に考えれば考えるほど悩みや不安は大きくなるもので、数は少ないが進路希望を明確に確定できない生徒や進路希望が流動的な生徒もいるのも事実である。2年次、3年次の進路希望については、多少の希望の変動はあるものの、大きな進路希望の変化はあまり見られなかった。「産業社会と人間」の授業を受けて進路の目標を設定する1年次の希望が2年次、3年次への進路希望につながっており、多くの生徒が学年進行でそれが確認されていく過程がよく分かる。

5 成果と課題

(1) 成果

学習指導要領の総則に、総合学科の特色として、次のように記載されている。

- ①将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること。
- ②生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること。

この特色を生かす象徴となる科目が、正に「産業社会と人間」である。平成15年の総合学科立ち上げの際に、この「産業社会と人間」の授業をどのようなねらいをもって、どのように展開していくのか、会議を積み重ねた経緯がある。その中で、本校総合学科の目標である生徒の夢をはぐくみ、個性を育て、自分の可能性を拓くことのできる（自分でチャレンジできる）学校、また、その生徒にふさわしい、計画性のある内容として、「自己理解」「職業理解」「学問理解」「将来設計」というキーワードが生まれた。前述のとおり、時間ごとの指導案やワークシートは本校独自のものである。そのキーワードの下、単発的な計画や指導ではなく、1年間を通した計画性のある内容、指導であり、適職適学進路適性検査を柱に、進路目標を明確に定め、高校卒業後の将来設計までイメージさせるという点が特徴的なところである。

実際の授業での留意点としては、書くこと、聞くこと、発表すること、コミュニケーションを大切にすることを基本とし、生徒の自主性・積極性を重んじ、明るい雰囲気を大切にながら指導を行っているが挙げられる。前述の授業アンケートにもあるように、生徒はこれを有意義であると感じ、高い評価を与え、受け入れている。「産業社会と人間」のねらいの通り、生徒がこの授業に主体的に前向きに取り組むことで、自己理解を深め、周囲や仲間とのコミュニケーションの機会をもち、互いに協力し望ましい人間関係を築くことができている（自分史作成・発表、適職適学進路適性検査自己分析等）。また、進路や職業、学問等に関する情報収集や調査学習から自分の進路の方向性を見だし、必要な情報を選択し、活用する姿勢も身に付けている（職業人インタビュー・発表、外部講師・卒業生講話、職業理解、学問理解、進路研究等）。そして、目標とすべき進路や将来を考え、その実現のための進路計画を立て、自らにふさわしい選択や決定を自ら決断・実行することで、将来の目標とする職業の職業観や勤労観を育てることに役立っている（系列科目選択、履修計画作成、ライフプラン作成・発表等）。

生徒の学校生活の面においても、総合学科への改組以前は、1年生で部活動を辞めてしまう生徒が多かったが、現在は多くの生徒が部活動に参加しており、部活動は3年間継続して行うものであるという意識も芽生えつつあり、学校生活の一部として定着している面も見逃せない。さらに、学校行事においても、文化祭や体育祭に積極的に協力する生徒も増加しており、参加するのが当然であるという雰囲気ができつつあるようにも感じる。集団の中での自分の役割を理解し、前向きに行動し、実行していく力も身に付いてきている。これらの実態は、総合学科が目的としている特色にふさわしいものであり、かつ、キャリア教育の内容を体験的に高め、そして、深めていると言っても過言ではない。

(2) 課題

ア 授業準備に関わる課題

「産業社会と人間」の科目の特性上、事前にその授業におけるねらいや目標、時間配分など指導案に沿って、担当者で共通理解し、授業内容がぶれないように確認する必要があるが、毎週火曜日に打合せ会議を行っている。当初はこの会議を週に2回行っていたこともあり、非常に労力が必要で、部活

動（顧問）への影響が心配された。最近でこそ、「産業社会と人間」を担当した先生方も多くなり、要領も得て会議の時間を短縮することができるようになった。しかし、できるだけ会議を少なく、効率よく打合せを行いたいが、初めて担当する先生方もいるので、担当者によって大幅に内容が異なったり、ねらいや目標がぶれないようにするための配慮は必要である。

イ 授業内容、評価にかかわる課題

「産業社会と人間」の授業に関して、毎年生徒のアンケートと反省及び担当者の反省を行っている。その反省を生かしつつ、ねらいや目標を明確にした内容を精選し、改良を加えて、生徒の実状に合った内容を盛り込んでいく必要性も感じている。また、評価については、現在のところ、時間ごとに提出するワークシートや報告書（課題）を含めた提出物、発表内容、そして授業に取り組む態度等を総合的に判断しているが、さらに、明確な評価規準づくりが必要である。

ウ その他の課題

生徒の実状に合った授業内容はもちろんのこと、現状を考えると、高校に入学した当初は、今後の学校生活の目標や進路目標を明確に設定できるように配慮していくことが必要である。さらに、科目選択の流れもあり、難しい側面もあるが、進路の方向性については、最低でも1年間かけてじっくりと考えさせて、納得して進路選択、科目選択をさせるべきで、結論付けを急ぐことは好ましくないと実感している。ただ、中には将来設計立案の際に、現実的でない計画を考える者も少なくない。現実との距離感を理解させ、生徒の進路希望をソフトランディングさせていくことの必要性も感じている。加えて、1年次の「産業社会と人間」で進路希望（夢）をはぐくみ、2年次、3年次の「総合的な学習の時間」へ引き継ぎ、関連付けて指導していくことも大切な観点であると思う。最後に、「産業社会と人間」の授業で、夢をはぐくみ、具体化させていく上で実現に向けての実践や各個人なりの努力目標を設定させ、一步一步着実に進んでいくことの大切さを実感させることも重要であり、それがキャリア教育の眼目でもあると考えている。また、キャリア教育に関する国及び県の指定事業を機に、キャリア教育のより一層の推進を図っていくことも大きな課題である。